

国立大学法人東北大学総長の業務執行状況の確認(中間評価)について

令和3年12月22日

国立大学法人東北大学総長選考会議

国立大学法人東北大学総長選考会議では、大野英男総長の任期が3年を終了したことから、総長の業務執行状況の確認に関する基準(令和3年8月17日総長選考会議決定)に基づき、業務執行状況の確認(中間評価)を行った。

1. 確認方法

総長選考会議は、大野英男総長から総長就任から令和3年10月までの業務執行状況及び今後への取組方針等について書面による確認とヒアリングを実施するとともに、経営協議会委員、教育研究評議会評議員及び監事に対して、総長の業務執行状況について意見聴取を実施した。また、総長選考会議は、そのミッションを果たすためには、東北大学の現状と課題、更には発展の方向性について、東北大学の構成員が抱く見解、ビジョンを共有しておくことが必須との認識から、総長選考会議内にサブコミッティーを設置し、令和3年4月から11月まで7回にわたり、役員、部局長、若手研究者及び学生との意見交換を実施した。

総長選考会議は、多面的に情報を分析した上で、協議を重ね、業務執行状況の確認(中間評価)の結果を決定した。

2. 評価

大野総長は、「東北大学ビジョン 2030」やポストコロナ時代を見据えた「東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略」を掲げ、その優れたリーダーシップのもと、大学経営の変革を促し、教育、研究、社会との共創を推進するため、様々な施策を行ってきており、その業務執行状況は高く評価できるものと認められ、特に評価できるものとしては以下が挙げられる。

- (1) 東北大学挑創カレッジや学位プログラム等の教育プログラムの拡充、先進的な AO 入試の拡大に努め、着実に成果に結びつけている。
- (2) 高等研究機構を頂点とする研究イノベーションシステムにより、未来型医療など4つの重点分野において世界トップレベルの研究が推進されている。次世代育成のため、若手研究者躍進の支援、博士課程学生への支援にも積極的に取り組み充実させている。

- (3) 社会との共創において次世代放射光施設を踏まえたサイエンスパーク構想を進めるとともに、スタートアップ・ユニバーシティ宣言によりベンチャー創出を通じて地域の新たな社会像をリードする役割を果たしている。
- (4) プロボストを設置し、その活動を支える組織として総長・プロボスト室を置き、横断的な課題に対して柔軟に対応している。
- (5) エンゲージメント型経営を掲げ、コネクテッドユニバーシティ戦略を打ち出すことにより、学生評議員制度を新設するなど制度面の充実を図りながら、学内各層のステークホルダーとの直接的な対話を実施し、大学運営に反映させている。また、DXを積極的に推進し、大学経営の変革を促すとともに、社会を先導する様々な取組を実践している。
- (6) コロナ禍において、学生への財政的・精神的支援を迅速かつ的確に行っている。また、コロナ関連の研究推進や大学病院を中心とした感染症医療への貢献など社会の感染拡大防止に積極的に取り組んでいる。とりわけ、東北大学ワクチン接種センターを設置して、全国に先駆けて一般市民を対象とするワクチン接種を大規模かつ長期間にわたって実施するとともに、大学拠点接種において、東北大学のみならず近隣の13大学等の学生、教職員へのワクチン接種を行い、地域社会へ多大な貢献をした。

今後も引き続き、そのリーダーシップのもと、ポストコロナにおける大学教育・研究の在り方やグリーン未来創造構想について検討を深め、世界と伍する研究大学を目指して諸活動に取り組むことにより、東北大学が成長する公共財として社会の先導的役割を果たし、地域社会にも貢献していくことを期待する。

なお、研究活動の一層の推進に向けて、事務体制等支援体制の強化を図るとともに、安定的な財源確保のため、東北大学独自の財政基盤を拡充することについて更なる対応が求められる。

以上

【総長選考会議における役員、部局長、若手研究者及び学生との意見交換実施状況】**総長選考会議サブコミッティー**

構成メンバー：原山委員（責任者）、小野寺議長、東委員、八重樫委員、今村委員

※上記をコアメンバーとし、他の総長選考会議委員にも任意で参加いただいた

第1回 総長との意見交換(4月30日(金))

参加者:総長

総長選考会議委員5名(小野寺議長、海輪委員、榊委員、遠山委員、原山委員)

意見交換のポイント:

- ・総長の在り方について
- ・プロボストについて
- ・現在認識している課題について

第2回 企画・経営担当役員等との意見交換(6月18日(金))

参加者:企画・経営担当役員等3名

総長選考会議委員8名(小野寺議長、榊委員、原山委員、富永委員、長坂委員、八重樫委員、今村委員、寺田委員)

意見交換のポイント:

- ・プロボストとして今後特に注力すべき点について
- ・総長とプロボストの関係性について
- ・大学ファンド構想がもたらす効果と影響について
- ・執行部、中でも総長による経営判断が必要となる優先度の高い課題について
- ・運営体制において、補強すべき点、変革すべき点について
- ・事務組織の機能強化の取組、今後の方向性について

第3回 教育・学生支援担当役員等との意見交換(7月5日(月))

参加者:教育・学生支援担当役員等3名

総長選考会議委員8名(小野寺議長、榊委員、原山委員、東委員、富永委員、長坂委員、八重樫委員、今村委員、寺田委員)

意見交換のポイント:

- ・人材育成の視点から、これまでの体制で顕在化しつつある課題について
- ・新たに導入された人材育成に関する組織体と学部・大学院等との連動について
- ・機構というスキームの使い勝手について
- ・文学部・文学研究科が抱える固有の課題について
- ・教育・研究の視点から他部局との連携の可能性について
- ・大学運営に関わる意思決定における規模の優位性の是正について

第4回 社会連携・共創担当役員等との意見交換(7月12日(月))

参加者:社会との連携・共創担当役員等3名

総長選考会議委員8名(小野寺議長、榊委員、原山委員、東委員、富永委員、長坂委員、八重樫委員、寺田委員)

意見交換のポイント:

- ・産学連携を推進するにあたり様々な要求にどう対応すべきかについて
- ・5年先を見据えた東北大学の産学連携の形について
- ・東北大学基金に係る現行制度の課題と今後の運用の方向性について
- ・他大学、特に東北地域の大学とのアライアンスの可能性について
- ・地域医療の中核としての役割、医学系の教育研究の貢献において取り組むべき課題について
- ・5年先を見据えた大学病院のあり方について

第5回 部局長等との意見交換(7月19日(月))

参加者:部局長等6名

総長選考会議委員6名(小野寺議長、海輪委員、榊委員、遠山委員、原山委員、東委員)

意見交換のポイント:

- ・総合大学の一部局として大学本部との関係性について
- ・教育・研究の視点から他部局との連携の可能性について
- ・大学運営に関わる意思決定における規模の優位性の是正について
- ・部局視点で大学院大学構想の効果や限界について

第6回 若手研究者との意見交換(11月8日(月))

参加者:若手研究者6名

総長選考会議委員7名(小野寺議長、原山委員、東委員、長坂委員、八重樫委員、今村委員、寺田委員)

意見交換のポイント:

- ・研究環境・研究支援体制について
- ・キャリア形成、人事制度について
- ・東北大学がどういう大学であってほしいかについて

第7回 学生との意見交換(11月22日(月))

参加者:学生8名(学部生4名、大学院生4名)

総長選考会議委員9名(小野寺議長、榊委員、原山委員、富永委員、長坂委員、成瀬委員、八重樫委員、今村委員、寺田委員)

意見交換のポイント:

- ・授業、研究指導、生活支援、就職支援等について
- ・東北大学がどういう大学であってほしいかについて